

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：西有馬おひさま保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：小島 良一郎	定員（利用人数）： 130（138）名	
所在地： 川崎市宮前区有馬1-8-6		
TEL：044-855-2525	ホームページ： https://kotobukikai.ed.jp/nursery/nishiarima/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2014年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人寿会		
職員数	常勤職員： 23名	非常勤職員： 22名
専門職員	施設長 1名	看護師：1名
	保育士：32名	栄養士：1名
	調理員：4名	保育補助員：5名
	事務員：1名	用務員：1名
	保育アドバイザー：1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室6室、一時保育室1室、その他保育室2室	大ホール、玄関ホール、図書コーナー、事務室、会議室、休憩室、医務室、給食調理室

③理念・基本方針

《理念》

人と自然に接し 人を愛し 自然を愛し

自分から遊べる自主性 とらわれることのない自由な心をもつ おおきな子に

《保育方針》

- ・様々な環境の中で安全に配慮し、たくさんの体験を通して、豊かな心と自主性を育てる保育

- ・外遊び中心の活動を通して、健康な身体を育てる保育

- ・いろいろな子ども、異年齢の子どもとの関わりの中で、他者を思いやる心を育てる保育

- ・保護者と保育園が共に子どもの成長を見守り、育てる保育

- ・地域の人たちとの交流が自然にできる、開かれた保育

《保育目標》

- ・夢や遊び心を持って自然に伸び伸びと生活できる子ども

- ・よく見て、よく聞いて、よく考え、自由に表現できる子ども

- ・心も身体も健康でたくましい子ども

- ・いろいろな仲間と暮らす中で、仲間や自分も理解できる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・子ども一人一人が、園生活を無理なく楽しく過ごせるよう、家庭的な雰囲気を感じ、安全に配慮した生活が送れるよう環境を整えます。
- ・外でたくさん歩いて、たくさん遊んで体力をつけ、様々な体験の中で感性豊かな心と、自主性を育てていきます。
- ・仲間と一緒に育ちます。子ども達同士が遊ぶ中で、お互いの良さを知り、同時に痛みも知って、いたわり助け合える子ども達に育ててほしいと思っています。
- ・異年齢で生活する中で、大きい子が小さい子を可愛がり、小さい子は大きい子に憧れるという関係を築き、互いに育ち合うことを大切にしたいと思っています。行事にも、みんなで参加していきます。
- ・たくさん遊んでお腹をすかせ、たくさん食べて休息し、友だちと元気に過ごしていきます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月14日（契約日）～ 2022年2月3日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆子どもたちは、一緒に活動する中でお互いを認め合い、育ち合っています
 保育室には、子どもの発達や興味・関心にあわせておもちゃや絵本のコーナーが設置されていて、一人ひとりの子どもが好きな遊びを選んで落ち着いて遊べるようになっています。園は外遊びを大切にしている、雨でなければ毎日、広い園庭で遊んだり、近隣の散歩に出かけたりしています。戸外でたくさん遊び、たくさん歩くことで体力をつけ、自然や地域で友だちと一緒に活動することで感性豊かな心と社会性、自主性を育てることを目指しています。園庭遊びでは、クラスを超えて子ども達が交流していて、年上の子どもが年下の子どものために遊びを止めて場所を譲ったり、遊び方を教えたりする姿がたくさん見られます。保育士は子どもの姿を受け止め、子どものやりたいという気持ちを大切に保育しています。観察時にも、5歳児クラスで、相手が嫌な気持ちになる言葉を口にすることが増えていることを受けて、子どもたち自身が考えて「チクチク言葉」と「ぼかぼか言葉」を書き出し、そのことを劇のテーマとして展開して、子どもたちでアイデアを出し合って作り上げている様子がありました。友だちが上手にできない所をさりげなく手助けする姿もあり、子どもたちは一緒に楽しく活動する中で、様々な学びを得、育ち合っています。

◆保護者との関係作りに力を入れています

園は、保育方針に保護者との連携を掲げていて、保護者との良い関係作りに力を入れています。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、保護者が保育室に入れるのは登園時のみとしています。降園時には玄関当番の保育士を複数配置して保護者に笑顔で声をかけてコミュニケーションを取り、保護者の声を引き出しています。必要に応じてクラス担任も対応し、子どもの様子を伝えて相談にのっています。全クラス連絡帳を用いて、乳児は毎日、幼児は必要に応じて情報交換しています。コロナ禍で保護者に園の様子が見えにくくなったことを受けて、子どもの活動の様子を動画に撮って配信したり、壁新聞を作って貼り出すなど工夫しています。運動会や夏祭りは、感染対策を施して工夫して実施し、行事後にはアンケートを実施し、保護者の声を聞いています。このような取り組みの結果、保護者の満足度は高くなっています。

◆風通しの良い職場環境の中、職員は楽しく保育にあたっています

園では、全体会議のほか、クラス会議、リーダー会議、代表者会議、幼児・乳児会議等の話し合いの場を多く持ち、子どもの状況や保育のあり方について密に意見交換しています。園内研修では、具体的な記録を取り上げて子どもの姿について経験やクラスを超えてグループを作って話し合うなどしています。職員から意見が上がった時には会議等で話し合い、改善が必要となった場合には安全面等の危険がない限りは一定期間試行して、検証し、上手くいかなかった場合には柔軟に変えています。皆で質の向上を目指す中で、風通しの良い職場環境が作られていて、職員のモチベーションアップにもつながっています。

◇改善を求められる点

◆事業計画書を充実して職員間で共有できる仕組みづくりが求められます

事業計画書は法人と園の中長期計画の示す方向性、前年度の事業報告書や自己評価結果からの過去の振り返り、そして園を取り巻く事業環境の変化を踏まえて策定されることが求められます。その領域はサービス実践の諸分野に加え、経営資源も範囲となります。項目ごとに具体的な目標や数値が示され、職員に周知される必要があります。園の現状の事業計画書は、いずれの面でも十分な内容とは言えません。自己評価であがった職員意見も反映して事業計画書を充実し、職員間で共有していくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

西有馬おひさま保育園は、民営化による開園から8年目に入りました。

入所児童数の安定、職員の定着等により落ち着いて保育に取り組める環境が確立できています。子どもたちが安心してのびのびと園生活を送れるよう、職員研修への注力、保護者の方々との連携、施設整備等により保育内容の充実をはかってまいりました。

今年度は、さらなる質の向上のため、専門的な視点から園の運営、保育内容について評価していただき、当園の取り組みを見直していきたいと考え、第三者評価の受審を決めました。

今回、よこはま地域福祉研究センターさんに客観的にみていただいたことで、改めて当園の強みと改善すべき点とが明確になりました。また、評価していただくために、職員全員が自分たちの保育を振り返り、西有馬おひさま保育園が目指すものを共有し、その実現に向けて議論する場が持てたことも、第三者評価受審の大きな成果ととらえております。

これまでの職員の努力と保護者の方々のご協力、地域の方々のご支援を受けて培ってきた西有馬おひさま保育園の保育が、この第三者評価において適切に評価していただいたことに感謝しております。そして、子どもたちにとってよりよい環境を作っていくために、見えてきた課題を真摯に受け止め、保育の質の向上をはかっていきます。そして、地域社会に少しでも貢献できるよう力を注いでまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり